

昭和三十七年九月二十一日

一七五 I A B C

トヨタ自動車、新型クラウンを発表

トヨタ自動車販売協会は九月二十一日、かねてから注目されていた新型トヨベツト・クラウン、同デラックス及び同カスタムの三車種を発表した。

新型車は、八年近く国産乗用車の代表的地位にあつたクラウンのモデル・チェンジにふさわしく、スタイル、大きさ、乗心地、高性能などを全面的に刷新向上しており、貿易の自由化を目指す同社の自信を示すものとして、また今後のマーケット・シェアに大巾な変動をもたらすものとして注目される。

新型車の主な特長は

(1) より低くより長くと云う世界の傾向をとり入れ全高を七〇ミリ下げるとともに全長を二〇〇ミリ延長し、直線を活かした国際感覚の斬新なデザインを施したこと。

(2) ホイール・ベースを一六〇ミリ延長し、前後サスペンションとシート・クッションの改良、新機軸のボデー・マウンテイングなどによつて乗心地を一段と向上させたこと。

(3) レッグ・ルームを一二〇ミリひろげ窓面積を大巾に拡大して室内の居住性を一段と快適且つ豪華なものにしたこと。

(4) 重心を下げ空気抵抗を少くして高速安定性能の向上に役立てるとともに、潤滑、冷却機構を改良して長時間の高速連続運転を容易にしたこと。

(5) X型フレームとモノコック・ボデーをマウント・ゴムによつて結合した堅ろうなボデー構造を採用し、悪路での諸使にも充分堪えうる耐久性をもたせたこと。

(6) 低速時でも充電性能の高い交流発電機（オルタネーター）、路面からのショックを吸収するツィ・ジョイントのステアリングシャフト、耐久力にすぐれ踏力の軽いダイヤフラム型クラッチなど各部に数多くの新機軸を採用し、操縦性や安全性をたかめたこと。

(7) ボデー・カラーに本格的な色彩研究を払いトヨタ独自の一貫した色彩傾向に流行性を加味したオフ・ブラック系の新色を選ぶ



